

平成24年度第1回多治見市新火葬場建設検討委員会議事録

日 時 : 平成24年8月20日(月)

- 議題 (1) 答申後のおもな地元説明等の状況について
(2) 新火葬場建設に対する要望事項(概要)について
(3) 環境調査等の実施状況について
(4) 新火葬場の施設規模と今後のスケジュールについて

時 間 : 13時30分～15時40分

場 所 : 多治見市役所5階第1会議室

出席者

(委員) 片山委員長、豊田委員、春田委員、宮島委員、渡邊委員
(事務局) 水野環境文化部長、伊藤環境課長、市川課長代理、田中主査

13時30分開会

1. 部長あいさつ

2. 議題

(1) 答申後のおもな地元説明等の状況について

(答申後のおもな地元説明等の状況について資料1に基づき事務局より説明)

(委員) 地元の理解を得ていく過程で、分岐点となったことがあれば聞かせてほしい。

(委員) 30区のなかで温度差があり、「絶対反対」から「条件的なものを考えたらどうか」という意見があった。多治見市として火葬場はどこかに必要なもの。現火葬場の状況を見ると、早急に新しい火葬場が必要であることから、30区として対策委員会を立ち上げ、大藪第5町内の中で話を聞き、どうしていったらいいのか相談した。

大藪第5町内として要望書を出すことにし、個人的なものも含めて100項目程度の要望が提出された。どれもいずれはやってもらわなくちゃならないものと私個人は考えている。全ての要望を対策委員会として市長あての要望書として提出した。30区の対策委員も大藪第5町内の会合に入ってもらい議論をし、やっとそういう形にできた。まだまだ、反対と思っている人はいるが、いい方向に進めていこうという意見の方が大部分になってきた。

(委員長) 一番初めは、民業圧迫をしないよう火葬場だけを建設するとしていたが、本日の説明で斎場（式場）も併設する方向が示された。これは、委員会としては基本的に変わることに。運営は、民営となっているが、同意いただけるか。

(委員) 30区の対策委員会でも民業圧迫になるのではないかと議論になった。遠方の方もここですべてが終われる、来たら式までやって終われるような火葬場の方がより良いと考えて、対策委員会として市に式場併設を要望した。200～300人の大規模な葬儀の時は、今までどおり民間のセレモニーホールに頼んでいただき、そうでない70～80人程度は、大きな金額をかけなくてもここで済ませることができるホールをつくったらどうかという意見でまとまりつつある。

(委員長) そういう方向性で委員会として了解することとする。

(2) 新火葬場建設に対する要望事項（概要）について

(新火葬場建設に対する要望事項（概要）について資料2、3に基づき事務局より説明)

(委員長) 要望への市の回答について話せる範囲で説明してほしい。

(事務局) 現在地元と協議している最中。要望の中には、すぐ取り掛かれるものと非常に長い期間がかかるものが混ざっており、ソフトで解決できるものとハードで解決しなければならないものも混ざっている。

地元からも関心が高い迫間川の整備については、河川整備計画を今年度策定し来年度以降整備していくこととしている。それ以外の道路等の整備については、市内の他の地域からも多くの要望をいただいているが、姫地域の優先順位を上げ、できるところから順番にやっていきたい。

その他の要望も庁内で検討し、地元とも協議しながら進めていきたい。

(委員長) 姫駅周辺の整備等についてはどうか。住民説明会でも意見が出されていた。

(事務局) 姫地域全体の活性化の話と捉えており、トイレ等の設置の要望を伺っている。対策委員会と協議しているところ。

(3) 環境調査等の実施状況について

(環境調査等の実施状況について資料4に基づき事務局より説明)

(委員長) 交通量調査からは、今のところ問題ではないようだし、式場ができてそれほど増えるわけではない。

地元にとっては、工事車両や土砂の出し入れのほうの問題になるのではないかな。

当然市が適切に対応すると思うが、地区の方とも相談しながら進めたほうが良いと考える。

現在の環境が非常に恵まれていると推察するので、調整池もビオトープ的な観点で設計し、子どもたちが来て安全に遊べるようになれば、火葬場が文化的な施設というイメージになると私は思う。枯れ池の時期が長かったといえども、満々と水を湛えている状態を変えられるということは、それしか見ていない人にとっては非常に大きなことだと思うので、調整池をうまく生かしてほしい。

(委員) 前もって事務局から中間報告書を見せていただいたが、まず「カイツブリ」に関しては、普段は広い池を好むもの。しかし、繁殖する時には、葦とか繁ったところに浮き巣を引っ掛けて「隠れ家的」なところで繁殖する。今「カイツブリ」があそこに来ているが、大藪ため池の改修が終わっているので、そちらに移動することが考えられる。

「イヌセンブリ」や「ヘビノボラズ」などが確認されているが、これらは「岐阜県の湿地」2001年の調査では両方とも確認されていない。そのかわり「モウセンゴケ」とか「ミミカキグサ」や昆虫の「ハッチョウトンボ」が、確認されていたが現在はない。池は2001年以降枯れ池になって、平成19年から大藪ため池の改修で2年間だけという約束で雨水を貯めた関係で二次的な環境ができあがったと考えられる。

調整池をビオトープ的なものにするとか、用地の拡大も含めて環境に配慮すれば、もともと大藪は素晴らしい自然環境のあるところなので、再び何か蘇えるのではないかと期待する。

2001年の湿地の調査を実施された自然団体の人たちとは、まず「残せるものは残す」、「移殖できるものは移殖する」、「調整池もコンクリートで固めるだけの池ではなく、ビオトープ的なものになればありがたい」と話している。そういうようなところを提案していこうと考えている。

用地の拡大の中に緩衝帯を含むということは、自然への配慮がされる準備があるということ。なお調整池のスケールをよく考えないと、豪雨時に火葬場が使用できなくならないか心配。

(委員長) 環境アセスはどのくらい予算がかかっているか。

(委員) 環境アセスは、春夏秋冬1年通してやってほしいと地元からも要望した。建設前と建設後（稼動後）を比較したい。

(事務局) 環境アセスの予算は、2千万円程度。

(委員長) 環境アセスは費用がかかるが、必要な費用かと思う。稼動後は地元と市で相談してやっていくことだが、大体の予算はお互い頭に入れておいた方が良くないとお尋ねした。

(委員) 先のことになると思うが、地元からは「火葬場利用者が町内を通行しないよう

にしてほしい」と要望している。

(事務局) 業者に指導を徹底したいし、利用者への案内方法も考えていく。

(委員) 式場を併設すると通夜や葬儀に多くの自動車がかかるようになると思う。駐車場が少ないと近隣に路上駐車をされることが懸念されるので、駐車場スペースの確保の面からも用地拡張を要望している。

(委員長) 120～130台で検討しているのであれば、概ね良いのではないかな。
環境アセスで確認された貴重種というのは、その時に観察される一時的なものもあるのではないかな。どの程度対応しないといけないのかな。

(委員) 簡単に言うと、必ず「何が何年の何月にいた。または、あった」という、記録は残しておかなければならない。1994年の里山の自然誌、1996年のシデコブシの自生地、そして、2001年岐阜県の湿地で調査されているが、貴重種をみても、その時にあったものと、今回の確認種が変わっているということは、その種だけを保護しても何の意味もない。1度失われて、次に、また違う貴重種が生えてきているということは、建設地の池周辺は山際から水が染み出している湿地で、東海丘陵要素をふんだんに持った場所である。そのような、根本的なところを変えなければ自然というのは回復してくると思える。この、自然環境調査報告書はまだ、中間報告なので、野鳥関係の多治見市内の専門の方、それと植物や昆虫関係の方と話したところ、そんなに気を遣うデリケートな場所ではなくなっているとのこと。保護するのであれば、たとえば「イヌセンブリ」のある場所をそのままにしておくとか、そこに調整池をつけるとか、表土ごと移植できる必要があるのであれば移植するという方法をお聞きした。「カイツブリ」に関しては、大藪ため池とか、周辺の池で対処できるのではないかとお聞きしている。

(委員長) 「無くなった」とか「いなくなった」という記録は必要だが、それで環境が悪くなったという問題では全然なく、次のものが出てくれば、その変化を記録しておいた方がいいということだと考える。

そういう意味で、今回の調査は費用をかける意味があると思う。

(委員) 自然環境は、大藪地区の大きな財産のひとつ。多治見市はまだ、自然が守られていると自負している。だから、適切に対処をしていただけるものと考えている。

(4) 新火葬場の施設規模と今後のスケジュール（予定）について

(新火葬場の施設規模と今後のスケジュールについて資料5及びイメージ図に基づき事務局より説明)

① 施設規模（案）

（委員） 用地を広げ、式場を併設するということだが、予算は大丈夫か。

（事務局） 当初考えていた予算額に収まるか試算を開始しているところ。用地の買収費用も今後積算予定。

（委員長） 最初に予定した金額はどのようなか。

（事務局） 総合計画では、総額で30億円程度と計画していた。その範囲に収めるようにしたいと考えてはいるが、個別の予算まではお示しができない。

（委員） 当初8,800㎡で計画を進めていくと言われていたが、拡張するとどれだけになるか。

（事務局） 20,000㎡程度になる見込み。

（委員） 拡張用地の購入の見込みはある程度あるか。

（事務局） 地権者の方へご説明にまわり、ご協力はいただけるものと考えている。

当初は、ため池の敷地内で建設することから、2階建てで駐車スペースもあまり考えていなかった。式場の併設や緑地帯の設置、景観にも配慮した調整池等、地元からご意見を伺うなかで、こういうイメージになっている。

なお、これはあくまでイメージ。土地利用も含めてエスキスで提案を受け設計業者を決定する。形は変わるかもしれないが、大きな方向性として考えていただきたい。

（委員） ため池の敷地内に建物を建てるというのは変えられないか。

（事務局） なるべく民家から離れた所に建設してほしいとの要望のため、拡張した所で建設することは考えていない。

（委員） 全体の敷地として考えた時に、調整池をビオトープにとか、迫間川の改修とかの説明がない。

（事務局） このイメージでは、河川も既に付け変わっている。河川的位置や調整池の位置、駐車場の位置は設計業者の提案により変わるかもしれない。

なお、私達もビオトープのような調整池にできたらと考えている。

（委員） 通常の調整池だと枯れてしまうように思う。子どもが遊べる池、憩いの場所になればベター。どこから水を引かれる予定か。

（事務局） 提案条件に組み入れ、設計業者から知恵をいただき、もっと素晴らしい案になるよう期待したい。

式場は、100席程度を想定しているが、半分に仕切って家族葬ができるようなイメージになっている。また、高さの面からも平屋にした案になっている。このイメージは、30区の対策委員会でもお見せし意見を伺っている。

（委員長） 1階建というのはいいと思う。身障者の人でも出入りがしやすいし、平屋で建てられるのなら平屋が一番良いと思う。

(資料5で施設について引き続き説明)

②今後のスケジュール (予定)

(委員長) 火葬炉のメーカーはどれぐらいあるか。

(事務局) 多治見市の業者登録されている該当しそうな業者が何社かある。今後、参加意向を確認していきたい。

選定にあたっては、地元の関心が高い排ガスの設備を確認したい。また、費用の面や緊急時の対応についても評価項目に加え、総合的に評価して決定していきたい。

(委員長) この委員会の役割は、建設まで責任を持つということなので、委員会の了解を得ながら進めていくということだと考える。

あらためて確認するが、用地の拡張は委員会として了解することによろしいか。用地交渉や買収は市にお任せするということによろしいか。

(異議なし)

(委員長) 建設工事の安全等は、30区、とくに近隣地区との話し合いで進めていただくことになると思う。それから都市計画決定手続きについては、市にお任せしてよろしいか。

(異議なし)

(委員長) 調査業務、地形とか用地の測量については、業者選定を含めて市にお任せするということによろしいか。

(異議なし)

(事務局) 炉の選定は、設計の前提になると考えている。炉の選定については、事前に情報提供はできるが、決定する段階は是非お任せ願いたい。

(委員長) 価格の問題等、情報提供できないこともあると思うが、地元へも連絡を取りながら進めてほしい。

(事務局) 選定にあたって、どのぐらいの業者が参加し、市はこのように選定したということは必ず申し上げるが、その選定委員の中に、本委員会の委員に入っていたかどうかということは避けた方が良く考えている。併せて確認させていただきたい。

(委員長) 炉の選定については、市主導で決定していただいて、決定の経緯について委員会に報告いただくということによろしいか。

(委員) 一般の人は、排ガスについて比較ができないので心配されると思う。

(事務局) 提案条件として基準を設け、それをクリアしてもらうようにしたい。

(委員) 他市を視察した際に、年に1つか2つクレームがあると聞いた施設があった。臭いには個人差があり難しい。

(委員長) 副葬品の影響も大きい。納棺の時に業者にしっかりと確認してもらわないといけない。

炉の選定についてよろしいか。

(異議なし)

(委員長) 設計業務については、造成も含め、委員会で確認したほうが良いのではないかな。

(事務局) 委員会には、炉メーカーの選定や設計業者の選定結果等、その都度状況を報告し、意見を求めていると思っている。

(委員) どういう炉を使うのかというのは、設計提案を求める時に条件として付けるか。

(事務局) できれば、炉を先行して決めていきたいと思う。

(委員長) そのような進め方でよろしいか。

(異議なし)

(事務局) 選考過程や業者からの情報はお出しできないものもあるが、結果等については、その都度報告していきたい。お集まりいただけない時には、委員長には必ず連絡をさせていただく。

(委員長) 地元選出委員と私は少なくとも報告をいただくとし、各委員には一任いただくようお願いしたい。

設計等の概略のことが決まれば、現地をもう1回見たい。現地を委員会として見ておかないといけないと思うが、いかがか。

(事務局) 都市計画決定が一つの区切りと考えている。最終的な手続きは来年4月になるかもしれないが、区域を決めるのは年内ぐらいと考えているので、年明けくらいでいかがか。

その時点であれば炉の話もできると思うし、いろんなことが進んでいると考える。

(委員長) 概略の設計の見通しがたった段階で次の委員会をやって、いろんな意見をいただくということでよろしいか。

(委員) 地元へのこの委員会の情報の流し方はどのようにしたら良いか。

(委員長) 市から流してもらえば良いのではないかな。

(事務局) 議事録等は、当然公開するし、ホームページでも公表していく。

町内等で回覧されるのであれば、必要な部数を用意する。

(事務局) もう一つ確認させていただくが、式場は貸ホールを考えている。民業を圧迫する気は全くないということをご理解いただきたい。

(委員長) 委員会としても式場をつくることは了解した。貸しホールの形態で良いと思う。斎場を持たずに業務ができるようになるので、アレンジメントのみする業者が出てくる可能性はゼロとはいえない。それは仕方ないし、家族だけで運営するのも良い。市としては、決められた使用料を取ればいいだけ。

(事務局) 貸館なので、清掃等はするが、スタッフを置く予定はない。

(委員) 調べてみるとそういうところが増えているようだ。安くやりたい方も多い。

(委員長) 次回は、概要が少し固まった段階で、もしかすると見学も含めてやりたいと思

うので、よろしくお願いしたい。

15時40分終了